

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ポピンズナーサリースクール千歳烏山
施設所在地	東京都世田谷区南烏山6-12-12 コーシャハイム千歳烏山12号棟2階
法人名	株式会社ポピンズエデュケア

1. 活動のテーマ

<テーマ>

芸術

<テーマの設定理由> ※①②両方について記載

①テーマの設定に活かした園の環境や強み
モノづくりなどしやすいアトリエがあるのでそのスペースを活用してアート制作などを行った

②設定したテーマに子供の興味関心があると判断した理由
日頃から作品作りや色彩などに興味を示し、モノづくりをしながらどうしてこうなるのかな?などとお友達同士で話す様子があったため

2. 活動スケジュール

8月：いろをたのしむ ソニア・ドローネー 図形アート
9月：くらしをみつめる アフリカンマスク
10月：「くらやみをさまよう」
11月：「ひろってつくる」
12月：「ふゆをあらわす」
1月：「あらたなとし」

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

8月：画用紙(丸・三角・四角など)、クレヨン、絵の具(各色)、紐、図形の型、セロテープ
9月：ダンボール、木材、麻紐、絵の具(赤 緑 黄)、ボンド、綿棒、マーカーペン
10月：黒のボール紙B4サイズ、絵の具(各色)、ムクノ叫びのシルエットの紙、マーカーペン各色、でんぶんのり
11月：落ち葉、薄紙、スティックのり、ろうそく、水彩絵の具、カードルーペ
12月：キャンバスボード(シルバー)、アクリル絵の具(各色)、マスキングテープ、トレー、ローラー
1月：山のシルエットのダンボール、色画用紙、フェルト、絵の具、ボンド

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

最初の図形から始まり、身近な図形などを使って表現活動を行ったところ、くらし（生活）に興味がわき、アフリカンマスクの制作を通じて外国のくらしについても知った。その中でアフリカの祭りなどにも触れ、お祭りから民族の気持ちや感情なども考えてみた。そのため、感情を表現している「ムンクの叫び」を次のテーマにしてアート活動をした。そのときどきの子供たちの制作を通じて感じたことやもっと知りたいと思ったことを基に次の制作テーマを決めて芸術を通じて探求活動を行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

色の組み合わせをどうしようか、どこをどんな風に塗ろうか、クレヨンと絵の具の混ざり合いをワクワクと楽しみながらペイントしたり、自分の作品をお友達に見せながらどんな気持ち表現したか、どうしてこの色を選んだかなどを教え合う姿が見られました。保育者は子供たちがアート活動をしながら主体的に発見したり感じたり表現したりできるよう声がけをしながら活動を見守った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの物づくりに対する意識が高く、自発的にどんどん新たな発見を求めて活動する姿が印象的だった。保育者は子どもたちの意欲をくみ取りテーマと設定を環境すること以外は基本的に見守っていた。子どもたちと一緒に作成の過程と完成した作品に対して、発見や喜びを共に伝えあった。同じテーマでも使用する色や形、大きさが異なりそれぞれ表現したいものが違っており、それぞれの作品に子どもたちの想いが込められていた。完成した作品に対してお迎えの時間に、子どもたちは保護者にも作品の工程で難しかった所やこだわった所を説明していたのが印象的だった。

保護者とも喜びや感動を共有することでまた次の作品への意識を高めているように感じた。